

## 開かれた名大を守れ — 1996年の東山キャンパス騒動 —

正門を持たないなど、学外にオープンであることで知られる東山キャンパスですが、このたびは新型コロナウイルス感染症の流行のため、学外者の入構禁止措置がとられました（7月20日現在は、緩和されています）。実は24年前にも、この開かれたキャンパスの危機がありました。

1996（平成8）年6月下旬、東山キャンパス構内で名大生が暴走族に襲われ、暴行や恐喝、現金の強奪に至る事件が、届出のあったものだけで8件も発生しました。3件は明るい時間帯のものであり、6月中は構内を暴走族のバイクが白昼堂々、轟音を立てて走り回るといふ光景が頻繁に見られる異常事態となりました。

新聞報道によれば、大学構内に逃げ込めば警察も追って来ず、学生を脅せば現金を奪えるという誤った認識が、多数の暴走族グループに広まっており、これが事件の多発につながったとされています。以前から、構内におけるバイクの迷惑運転や無秩序な駐車・駐輪

などのマナーの悪さが指摘されており、それが事件を誘発した面もありました。また、より大きな背景として、キャンパス周辺の急速な都市化を挙げることができます。

名大では、この状況に対し、開かれたキャンパスを守りながら学生と職員の安全を確保することに、全学を挙げて取り組みました。まずは、警備体制の強化、注意を促す看板や掲示、バイクの侵入防止設備の設置、要所への門扉の新設などの措置をとりました。1997年度以降は、学生のバイク通学の規制強化、警察の構内立入りに際してのルール整備、カード式入構システムの導入とその有料化などを進めました。1997年のキャンパスマスタープランには、この事件がキャンパスの防犯問題の警鐘になったと記されています。

現在では、暴走族が激減したこともあり、当時のような危険はなくなりました。開かれたキャンパスの伝統は、これからも大事にしていきたいものです。



- 1 四谷通から工学部1号館（現在の旧電子情報館）への入口に新設されたコの字型のバリカー。それまでの東山キャンパスの車両規制は、自動車を主対象とするものであり、バイクに対しては不十分であった。
- 2 北部厚生会館北側通路に新設された門扉。現在は使われていない。
- 3 1996年6月5日から9日にかけて開催された第37回名大祭。事件直前に行われたため影響をうけずにすんだ。しかし、今年の第61回名大祭は、新型コロナウイルス感染症の流行のため史上初の延期を余儀なくされた。
- 4 1996年の七大戦総合優勝祝賀会。この年の七大戦は、7月から8月を中心に名大を主管校として行われ、名大が2度目の総合優勝を果たした。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

### 名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



### 新型コロナウイルス感染症対策緊急学生支援基金ご支援のお願い

現在、新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延しており、健康医療は言うに及ばず、私たちの社会活動に広範かつ深刻な影響を及ぼしております。名古屋大学の学生への影響も甚大であり、学ぶ意欲をもちながらも困窮している学生の支援や、遠隔授業等の学習環境整備により、質の高い教育活動を維持するため、ご支援をお願いいたします。

Webでもご寄附を受け付けております。



<https://fundexapp.jp/nagoya-u/entry.php?purposeCode=110000>

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金



<https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>

